| 科目名 | 美術基礎１ | | | | | | | 年度 | 2026 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 英語科目名 | Basis of Fine Arts 1 | | | | | | | 学期 | 前期 |
| 学科・学年 | CG映像科　１年次 | 必／選 | 必 | 時間数 | 60 | 単位数 | 2 | 種別※ | 実技 |
| 担当教員 | 佐々木、齋藤 | 教員の実務経験 | | 有 | 実務経験の職種 | | イラストレーター／カメラマン／美術講師 | | |

【科目の目的】

CG作品の制作に必要となる色彩による空間や感情表現を学び、的確な色彩設計技術を習得する。

【科目の概要】

「色の三属性」に関する特性と効果について、また複合的な組み合わせを解説する。それぞれの解説と同時に絵の具を使ったワークショップを行う。
(美術基礎１はデッサン１の続きの授業となる。)

【到達目標】

色彩に関する多角的な理解や身体的感覚を深め、CG表現時の適切な色彩設計が可能となる。
デッサン時におけるモチーフの固有色を理解し、無彩色の明度への適切な変換が可能となる。

【授業の注意点】

色への認識は奥が深く、理解することに苦労する人もいる。その際、分からないまま後回しにするのではなく、担当の先生に質問したり、他の学生作品と比較し話し合ったりなど、各自ができる範囲での工夫が必要となる。
授業時限数の４分の３以上出席しない者は評価しない(不合格とする)。

評価基準＝ルーブリック

| ルーブリック<br>評価 | レベル５<br>優れている | レベル４<br>よい | レベル３<br>ふつう | レベル2<br>あと少し | レベル１<br>要努力 |
|---|---|---|---|---|---|
| 到達目標<br>A<br>「明度」 | 明度をよく理解し、着彩やデッサンにおいて的確に活かすことが出来ている。 | 明度を理解し、着彩やデッサンにおいて意図を持って出来ている。 | 明度を理解し、着彩やデッサンにおいてある程度、活かすことが出来ている。 | 明度に対して理解不足があるが、着彩やデッサンにおいて意欲的に出来ている。 | 明度を理解できず、着彩やデッサンにおいて活かすことが出来ていない。 |
| 到達目標<br>B<br>「色相」 | 色相をよく理解し、的確に着彩作品に活かすことが出来ている。 | 色相を理解し、着彩やデッサンにおいて意図を持って出来ている。 | 色相を理解し、着彩作品に活かすことが出来ている。 | 色相に対して理解不足があるが、着彩やデッサンにおいて意欲的に出来ている。 | 色相を理解できず、着彩作品に活かすことが出来ない。 |
| 到達目標<br>C<br>「彩度」 | 彩度をよく理解し、的確に着彩作品に活かすことが出来ている。 | 彩度を理解し、着彩やデッサンにおいて意図を持って出来ている。 | 彩度を理解し、着彩作品に活かすことが出来ている。 | 彩度に対して理解不足があるが、着彩やデッサンにおいて意欲的に出来ている。 | 彩度を理解できず、着彩作品に活かすことが出来ない。 |
| 到達目標<br>D<br>「色の効果」 | 色の三属性、色の視覚効果をよく理解し、作品に対して効果的に色を活用することが出来ている。 | 色の三属性、色の視覚効果を理解し、着彩やデッサンにおいて意図を持って出来ている。 | 色の三属性、色の視覚効果を理解し、作品に対してある程度、色を活用することが出来ている。 | 色の三属性、色の視覚効果に対して理解不足があるが、着彩やデッサンにおいて意欲的に出来ている。 | 色の三属性、色の視覚効果を理解できず、作品に対して、色を活用することが出来ていない。 |
| 到達目標<br>E<br>「課題」 | 期限内に課題が完成し、ブラッシュアップを済ませて提出することが出来た。 | 課題内容を理解し、期限内に課題を提出することが出来た。 | 期限内に課題を提出することが出来た。 | 未完成ではあるが、期限内に課題を提出することが出来た。 | 期限内に課題が完成しなかった。<br>あるいは、課題が提出できなかった。 |

【教科書】

教科書：「デザインの色彩」(初年度購入品に含む)／他、適宜作品や資料を参照する

【参考資料】

特になし

【成績の評価方法・評価基準】

試験・課題50%完成した企画の完成度について評価する。
平常点　　50%積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

| 科目名 | 美術基礎１ | 年度 | 2026 |
|---|---|---|---|
| 英語表記 | Basis of Fine Arts 1 | 学期 | 前期 |

| 回数 | 授業テーマ | 各授業の目的 | | 授業内容 | 到達目標＝修得するスキル | 評価方法 | 自己評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 導入 | 色に触れる | 1 | 色の見え方 | 授業主旨説明 | 1 | |
| | | | 2 | 色の三属性について | 色彩の概要説明 | | |
| | | | 3 | | 色見本の制作 | | |
| 2 | 導入 | 道具に触れる | 1 | 着彩道具説明 | 絵の具等の適切な使い方を理解する | 1 | |
| | | | | 絵具の用法 | | | |
| | | | | | | | |
| 3 | 明度 | 明度を理解する | 1 | 明度の解説<br>明度の実践<br>(作品制作)<br>最終回は作品講評 | 教科書を参照し、明度を理解する | 1 | |
| | | | 2 | | 絵の具を使って明度を理解する | | |
| | | | 3 | | 絵の具を使った明度の実践で理解する | | |
| 4 | 明度 | 明度を理解する | 1 | | 教科書を参照し、明度を理解する | 1 | |
| | | | 2 | | 絵の具を使って明度を理解する | | |
| | | | 3 | | 絵の具を使った明度の実践で理解する | | |
| 5 | 明度 | 明度を理解する | 1 | | 教科書を参照し、明度を理解する | 1 | |
| | | | 2 | | 絵の具を使って明度を理解する | | |
| | | | 3 | | 絵の具を使った明度の実践で理解する | | |
| 6 | 色相 | 色相を理解する | 1 | 色相の解説<br>色相の実践<br>(作品制作)<br>最終回は作品講評 | 教科書を参照し、色相を理解する | 1 | |
| | | | 2 | | 絵の具を使って色相を理解する | | |
| | | | 3 | | 絵の具を使った色相の実践で理解する | | |
| 7 | 色相 | 色相を理解する | 1 | | 教科書を参照し、色相を理解する | 1 | |
| | | | 2 | | 絵の具を使って色相を理解する | | |
| | | | 3 | | 絵の具を使った色相の実践で理解する | | |
| 8 | 色相 | 色相を理解する | 1 | | 教科書を参照し、色相を理解する | 1 | |
| | | | 2 | | 絵の具を使って色相を理解する | | |
| | | | 3 | | 絵の具を使った色相の実践で理解する | | |
| 9 | 彩度 | 彩度を理解する | 1 | 彩度の解説<br>彩度の実践<br>(作品制作)<br>最終回は作品講評 | 教科書を参照し、彩度を理解する | 1 | |
| | | | 2 | | 絵の具を使って彩度を理解する | | |
| | | | 3 | | 絵の具を使った彩度の実践で理解する | | |
| 10 | 彩度 | 彩度を理解する | 1 | | 教科書を参照し、彩度を理解する | 1 | |
| | | | 2 | | 絵の具を使って彩度を理解する | | |
| | | | 3 | | 絵の具を使った彩度の実践で理解する | | |
| 11 | 彩度 | 彩度を理解する | 1 | | 教科書を参照し、彩度を理解する | 1 | |
| | | | 2 | | 絵の具を使って彩度を理解する | | |
| | | | 3 | | 絵の具を使った彩度の実践で理解する | | |
| 12 | カラースクリプト | 色彩を複合的に理解する | 1 | 色の三属性まとめ、応用課題<br>カラースクリプト(絵の設計図)を各自が設定したテーマに沿って着彩する | イメージに合わせて塗り分け、色の三属性を理解する | 1 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 13 | カラースクリプト | 色彩を複合的に理解する | 1 | | イメージに合わせて塗り分け、色の三属性を理解する | 1 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 14 | カラースクリプト | 色彩を複合的に理解する | 1 | | イメージに合わせて塗り分け、色の三属性を理解する | 1 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 15 | カラースクリプト | 色彩を複合的に理解する | 1 | | イメージに合わせて塗り分け、色の三属性を理解する | 1 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

評価方法：1.作品課題

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等　指定の実習室・教室で受講する。